

「米国第2海兵師団撮影の熊本関係写真と映像 II オキュパイトジャパン」

高谷 和生（熊本県玉名市） ※くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

I はじめに 米国海兵隊 熊本を撮る！

1 海兵隊フィルム、映像とスチール写真の中身は

2022年報告「米国第2海兵師団撮影の熊本関係写真と映像 I」及び、2021年くまもと戦跡ネット作成リーフ『進駐軍が見た熊本』で紹介した資料は、1995年羽仁進氏が主催する市民団体「平和博物館を創る会」による「10フィート運動」で、戦後に米国海兵隊が撮影し、米国国立公文書館に所蔵されている長崎被爆惨劇を中心とした16ミリカラーフィルム「1万6661フィート（3.25km）・約5時間・1121カット」の一部である。

今回本稿で紹介する「昭和館」所蔵資料は、この映像を1995年頃米国国立公文書館より館が独自に入手したもので、館内及びウェブ上で「熊本の市街地の様子」として紹介されている映像である。映像内容は、第1表に示す通りで、長崎港・大牟田を含め映像時間は6分39秒、熊本関係は4分43秒である。

また、今回第二弾として紹介するスチール写真は、前回報告で詳述した様に、米国国立公文書館に所蔵されている長崎原爆資料調査の過程で、「Nagasaki」銘と記載がなされているが「熊本関連」と想定される写真資料群である。本写真の所蔵は「公益財団法人 長崎平和推進協会 写真調査部会」で、その総数は約4,000点とされる。

本スチール写真は、2022年5月9日同部会から本会が提供を受けたものである。内訳は、天草海軍航空隊・富岡水尻砲台他21枚、菊池飛行場26枚、菊池恵楓園10枚、健軍（熊本）飛行場38枚、三菱重工業熊本航空機製作所8枚、三角港爆弾等投棄・米兵阿蘇登山・天使園・熊本市内各所他99枚の「計202枚」である。全202枚中では、新発見写真は「179枚」である。

また本写真群の撮影された期日は、1945（昭和20）年10月14日～1946年3月18日までである。なお、本稿では、誌面の関係で各地域・項目分類毎の一覧表は割愛する。

なお、戦後撮影の米軍写真に関連する熊本県内資料としては、熊本日日新聞社に「故 野田 衛氏（熊本市出身・ジャーナリスト）から「1985（昭和60）年に約240点」の寄贈を行なった「熊日情報ライブラリー」所属資料がある。一部は特集「米軍記録 占領下の熊本 克明に」での紙面紹介（昭和60年7月12日～8月15日・全29回）、展示会「終戦40年 熊本展」（1985年8月13日～19日・鶴屋百貨店ホール）で公開されたが、多くは「未公開」状態である。

さらに、2023年岩波新書より佐藤洋一・衣川太一著『占領期 カラー写真を読む ～オキュパイト・ジャパンの色』が出版され、「陸軍隈庄飛行場での戦後接收カラースライド写真」が確認された。同撮影班部隊員ヘンリー・H・ソウレン氏撮影のプライベートスライド写真であり、その概要も報告する。

2 撮影はどの様に行われ、その歴史的意義と価値は

この撮影部隊は、米海兵隊第2海兵師団ノーマン・ハッチ少佐指揮下の「スチール写真班（2D MAR DIV PHOTO SELECTION）」と「映像班（2D MAR DIV MOVIE SELECTION）」の複数の撮影班である。

本映像撮影期日は1945年9月23日～11月10日で、部隊は長崎港に上陸後、市内各所で原爆被災状況を撮影しつつ、長崎近辺（大村・島原他）へも出向いている。その後旧日本国有鉄道を利用し映像1・2に示す様に大牟田市を経て、熊本へ到着している。

ムービー映像撮影前には既存様式のキャプションボードが撮影されて、そこには撮影者、日付（date time）、最下段には撮影班「2D MAR DIV」等を記載、現地情報がそのまま記載されている。

一方、写真資料は現地撮影後で本国帰国後で整理されている。専用パンチカード方式台紙に該当写真を貼り付け、タイプ打ちして収納している。台紙には通し番号例「137337」等が、手書き文字・番号例「127-GW-1542」等が記載されており、これは米国国立公文書館独自の分類である。具体例として「RG 127-GW, Photographs of World War II and Post World War II Marine Corps Activities, ca. 1939-58」等の記載である。ただ、これらの米軍側ロケーションレポート（作戦用務）は未調査である。

II 熊本県内・市内各所の接收・戦後状況

ここでは熊本駅、熊本市中央街の被災、三角港での爆弾・武器類の投棄、米兵の阿蘇レクリエーションキャンプウッド（旧陸軍熊本幼年学校・清水校区）、陸軍車輛・装備品の接收、南熊本駅周辺の航空機工場等、天使園とカソリックミッションスクール（上林高等女学校）進駐軍の活動、陸軍隈庄飛行場での戦後接收カラースライド写真を紹介する。

III まとめ

戦後78年を迎えた2022年7月の第一弾報道公開の後、今回の「公益財団法人 長崎平和推進協会 写真調査部会」から提供いただいた写真新発見写真を中心に、熊本日日新聞紙上・令和4（2022）年7月17日より「くまもと戦後77年 米軍写真から」として、逐次で紙上公開された。さらに第二弾公開後は熊日新聞紙上で「くまもと戦後78年 米軍写真から」として令和5年6月29日まで計8回紙上公開がなされた。

長崎ケーブルメディアで公開されている16mm映像の大部分は、長崎原爆投下後最も早い45日目の被爆初カラーフィルムであ



□写真1 隈庄飛行場接收映像 くまもと戦跡ネット蔵 ※カラーリバーサル写真

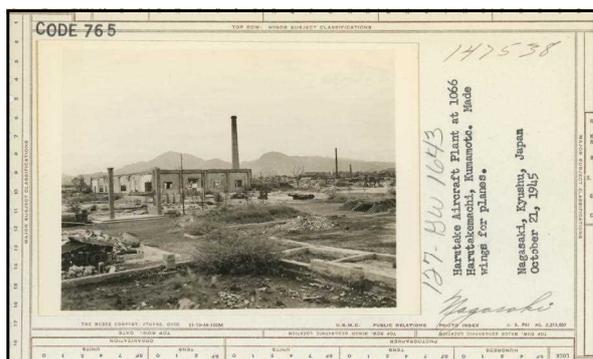
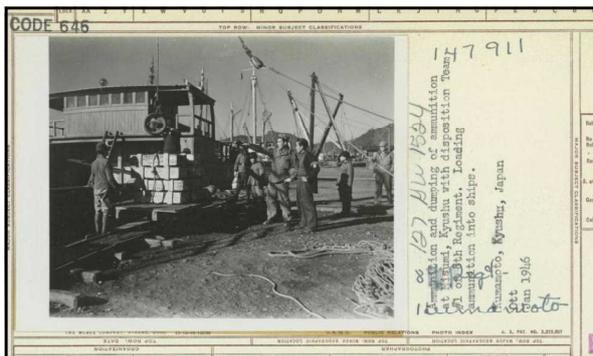
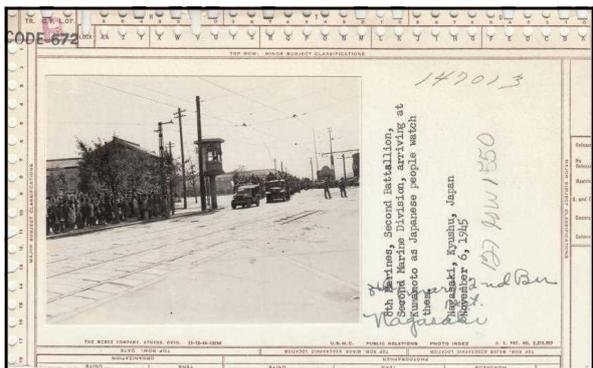
る。熊本関係で前回公開した同メディア映像、今回公開する昭和館映像は、それに付随した副次的なもので収録時間は短い。敗戦後の熊本を記録したオフィシャル（公的）なスチール写真及び16ミリカラーフィルムである。これら映像・写真の一部は、くまもと戦跡ネット発行の平和平和継承リーフレット『進駐軍が見た熊本』及び『進駐軍が見た熊本 II』で紹介している。

また、プライベートなカラースライド写真も、戦後状況を補完する資料群である。

以下4項目で熊本に関する映像・写真資料の歴史的意義・価値を示す。

- ① 16ミリカラー映像と白黒写真は「戦後熊本の敗戦状況」を記録した貴重な資料の発見である。16ミリカラー映像では長崎ケーブルメディア映像と昭和館映像の2本が確認できた。
- ② 「公益財団法人 長崎平和推進協会 写真調査部会」から提供いただいた白黒写真は、これまでは全く確認できていなかった「天草海軍航空隊・富岡水尻砲台等」接收の初資料である。天草下島地区については、島原半島から渡海し部隊が接收した状況が想定できた。
- ③ 白黒写真の既公開資料として「菊池飛行場・健軍飛行場・三菱重工業熊本航空機製作所・三角港爆弾等投棄・市内航空工場等」が部分的に確認されていたが、本写真・映像資料により、さらなる空襲被害状況、施設の接收状況、菊池恵楓園入所者状況、飛行機・武器類の遺棄での新たな確認ができた。
- ④ 同撮影班部隊員ヘンリー・H・ソウレン氏撮影のプライベートカラースライド写真では、隈庄飛行場、三菱重工業熊本航空機製作所、熊本市内の庶民生活を撮影した。

20241110版



- 一段左：写真2（熊11-30）熊本駅に到着した米第2海兵師団第8戦闘隊の様子 1945年11月6日撮影
- 一段右：映像1 熊本市公会堂の様子 昭和館映像
- 二段左：写真3（角-5）三角港での海上投棄の武器・爆弾等の木帆船への積みこみ作業。1946年1月撮影
- 二段右：写真4（阿-21）阿蘇山より帰路バス乗車の様子
- 三段左：写真5（熊11-15）スキ型四輪駆動水陸両用車の接收様子
- 三段右：写真6（熊10-23）春竹町の航空機工場戦災様子
- 四段左：写真7（熊11-10）熊本天使園でのシスターと戦災孤児たち ※白黒写真は全て、長崎平和推進協会所蔵